

## まちの記憶をよびおこす古文書を調査・整理

奈良県・吉野町にある学生の実家(藤内家)にたくさんの史料が残されていると聞き、有志の学生たちと訪問。史料を年代ごとに分けて保存に適した箱に入れ直すという作業を行うなかで、江戸時代の古文書に触れることができました。吉野町では組合のような団体をつくって京都や大阪に灯に使うための油を売っていたことや、山の境界についての争いがあったことが手に取るようにわかります。土地やお金に関する史料のほか、和歌が書かれた短冊も。江戸時代、吉野の人たちが和歌を勉強し、教養を高めていたことを裏付ける貴重な史料でした。

奈良大学では奈良県・山添村と包括連携協力に関する協定を結び、毎年2回、有志の学生と教員で村の古文書調査も実施。地区の祭りなどに関する膨大な史料を整理していくと、地域の人たちも自分の住む場所に改めて関心を持ってくれます。内容がわからなくて捨てられてしまうことも多い古文書ですが、少しの気づきで地域を知るための大事な記憶として蘇らせることができるのです。情報量が多く、歴史を正確に知ることができる古文書にあなたも触れてみませんか。



史料を大事にしようとする姿勢の人たちがいなければ、町や村の正しい歴史はわからなくなってしまうもの。学生には史料を後世に残すための整理や保管のしかた、読み方を伝えています。

文学部 史学科  
専門分野/日本中世史・文化史  
河内 将芳 教授、博士(人間・環境学)  
KAWAUCHI Masayoshi

【史学科】  
地域を  
知る



昔の人たちが触れた古文書と対面する、これこそ歴史学の醍醐味です。  
(齊藤さん、藤内さん、岸本くん、沖野くん、樋口さんが参加してくれました。)

掲載の内容は、2018年11月に実施されたものです

### 史学科のフィールド・アクティビティ

- 教育委員会と共同で実施の山添村古文書調査(年2回)
- バスによる日帰り史跡見学会(2020年度は大山崎・水無瀬)
- ゼミ単位の宿泊研修(岡山・倉敷など)
- ゼミ主催の史跡・博物館などの見学会(大阪四天王寺・奈良町など)